

戦後の
出版思潮を
網羅した書評紙！

●復刻版

『図書新聞』創刊40年記念出版

週刊
圖書新聞

昭和24年創刊から

40年分をB4判に縮小し復刻。

新たに、解説・記事・執筆者・書評索引を付す。

全4期（一九四九〜五九年／一九六〇〜六八年／一九六九〜七九年／一九八〇〜八八年）完結



【第一期】全9巻・別冊1

本体価格二三四、〇〇〇円＋税

【第二期】全9巻・別冊1

本体価格二三四、〇〇〇円＋税

【第三期】全10巻・別冊1

本体価格二五八、〇〇〇円＋税

【第四期】全9巻・別冊1

本体価格二四五、〇〇〇円＋税

復刻にあたって

『図書新聞』は、一九四九昭和二四年六月、『日本読書新聞』編集長であった田所太郎によって創刊された。

本紙が創刊された当時は、日本国憲法は施行されたものの、まだ連合軍の占領下にあり、混沌のなかにも新しい日本創造の機運が大きく高まっていた頃であった。

敗戦直後に堰を切ったように次々と雑誌が創刊・復刊され、活字に飢えていたひとびとが、古本や新刊本をむさぼるように求めた。クが、ようやく少し過ぎたころであった。まさに本紙は、戦後から現在にかけての日本の出版事情及び文化状況をそのまま伝える、同時代の証言者である。

小社では、『図書新聞』創刊四十年を記念して、本紙を全四期にわたって完全復刻し、一九八九年年度には第一期として創刊の一九四九年から一九五九年までを、一九九〇年度には第二期として一九六〇年から一九七九年までを、一九九一年度には第三期として一九六九年から一九七九年までを刊行、予定どおり完結し、このたび一九九二年には第四期として一九八〇年から一九八八年までを復刻刊行する。また第一期・第二期・第三期同様「記事索引・執筆者索引・書評索引」を作成しこれに付して出版刊行する。

先行の書評紙『日本読書新聞』（小社既刊・品切）とともに、戦後の日本社会・思想界・文化界の状況を伝える貴重な資料として、公共図書館・大学図書館等の参考図書として、また近現代史・文学史・思想史・書誌学研究者等、広く利用されることを願うものである。

92年刊行の第4期カタログより



田所太郎（一九二二年〜一九七五年）

旧制松江高校を経て一九三七年東京大学文学部卒業。三省堂編集部、文部省社会教育局を経て一九四二年『日本読書新聞』編集長。一九四九年、機関誌『図書新聞』を創刊。今日の書評ジャーナリズムの原型をつくった。今日の書評ジャーナリズムの主要著書『出版の先駆者』(光文社、一九六九年刊)、『戦後出版の系譜』(日本エディタースクール出版部、一九七六年刊)。

『図書新聞』関連略年表

- 一九三五年・『日本学芸新聞』創刊
一九三七年・『日本読書新聞』創刊
一九四〇年・『日本読書新聞』創刊
一九四一年・『日本読書新聞』創刊
一九四四年・『日本読書新聞』創刊
一九四五年・『日本読書新聞』創刊
一九四六年・『日本読書新聞』創刊
一九四七年・『日本読書新聞』創刊
一九四九年・『日本読書新聞』創刊
一九五〇年・『日本読書新聞』創刊
一九五二年・『日本読書新聞』創刊
一九五四年・『日本読書新聞』創刊
一九五五年・『日本読書新聞』創刊
一九五六年・『日本読書新聞』創刊
一九五七年・『日本読書新聞』創刊
一九五八年・『日本読書新聞』創刊
一九五九年・『日本読書新聞』創刊
一九六〇年・『日本読書新聞』創刊
一九六二年・『日本読書新聞』創刊
一九六三年・『日本読書新聞』創刊
一九六四年・『日本読書新聞』創刊
一九六五年・『日本読書新聞』創刊
一九六六年・『日本読書新聞』創刊
一九六八年・『日本読書新聞』創刊
一九六九年・『日本読書新聞』創刊
一九七〇年・『日本読書新聞』創刊
一九七一年・『日本読書新聞』創刊
一九七二年・『日本読書新聞』創刊
一九七三年・『日本読書新聞』創刊
一九七四年・『日本読書新聞』創刊
一九七五年・『日本読書新聞』創刊
一九七六年・『日本読書新聞』創刊
一九七七年・『日本読書新聞』創刊
一九七八年・『日本読書新聞』創刊
一九七九年・『日本読書新聞』創刊
一九八〇年・『日本読書新聞』創刊
一九八一年・『日本読書新聞』創刊
一九八二年・『日本読書新聞』創刊
一九八三年・『日本読書新聞』創刊
一九八四年・『日本読書新聞』創刊
一九八五年・『日本読書新聞』創刊
一九八六年・『日本読書新聞』創刊
一九八七年・『日本読書新聞』創刊
一九八八年・『日本読書新聞』創刊
一九八九年・『日本読書新聞』創刊

内容見本 記事索引・執筆者索引・書評索引(縮小してあります)

思想・文化

Table with 3 columns: Title, Author, Price. Includes '家水 三郎 994-4', '久司 高明 994-4', '古由 由重 994-4'.

文学・芸術

Table with 3 columns: Title, Author, Price. Includes '大岡昇平 991-1', '高橋健二 995-6', '荒正人/尾崎秀樹 991-6'.

哲学・思想・宗教

Table with 3 columns: Title, Author, Price. Includes '大沢正道 991-7', '市井 三郎 995-11', '白川 正芳 995-2'.

伝記・随筆

Table with 3 columns: Title, Author, Price. Includes '小山 弘隆 999-2', '吉本忠一郎 991-2', '大野 和 991-2'.

創作

Table with 3 columns: Title, Author, Price. Includes '小久保 実 994-11', '梅田 冬一 995-3', '吉岡 貴 995-5'.

障壁画全集・8『女初期作品集(立原)』
新異国叢書・第九(沢村)
神聖喜劇第一部・水平社運動の思い出(オセロ)
戦後日本思想大系(解題)
続戯評の旅(横山)
大観画談(横山)
大徳帝国(宮崎)
大名の旅(宮本)
たのしいパステル(山田)
中国文学講話(山田)
長春五馬路(山田)
ちよんまげ手まり(山田)
帝国ホテル(写真)
山本学治)
定本詩集・1(古本)
デュラン・トマス)
てんぐのたいこ(江)
転脚のすすめ(今井)
転脚の人びと(勝)
東国の兄弟(浜野)
東大紛争の記録(森)
研究会編)
ニッポン町長奮戦
日本合戦史(高柳)
日本出版百年史(年)
日本庶民生活史料)
日本政治裁判録)
・林茂・団藤)
日本と中国の百年)
日本の近世住宅(平)
日本の政治風土(飯)
日本の美術絵画(中)
日本の美術・別巻)
日本の美術史(保)
日本のわらべうた)
パール・夜うつ太鼓・都会のジャングル(A・プレヒト、石黒英男訳) 996-3
芭蕉—その生活と美学(多田裕計) 994-11
巴里文学アルバム(村松嘉津) 998-4
叛逆のバリエード(日本大学文理学部闘争委員会書記局編) 994-11
反戦と変革(小田実・鶴見俊輔共編) 996-5
比較転向論序説(磯田光一) 997-3

今世紀後半の世相を ふり返る貴重な資料

稲葉三千男
〈東京大学名誉教授〉

「歌は世に連れ」というけれども、日々続々と出版される書物もまた、その時々世相を鋭敏・明確に反映しているに違いない。ベストセラーもさることながら、ほとんど注目されないまま埋もれてしまった地味な専門書の類にしても、書評紙のひとつの意義は、そういう出版界総体の活動を批評という形で記録しているところにある。このほど『図書新聞』の創刊四十年を記念し、まず、第一期として最初の十一年間（一九四九～五九）の縮刷版が不二出版によって刊行され、一昨年・昨年の第二期（一九六〇～六八）・第三期（一九六九～七九）の刊行・完結に続き、今回、第四期（一九八〇～八八）の刊行が開始される。この時期は、昭和の最後の時期だった。国内では、リクルート汚職が発覚した。国際情勢でも、やがてくる激動を、静かに予感させていた。

いよいよ世紀末が迫った今、過去四十年の歴史をもち、引き続き刊行されている『図書新聞』の縮刷版は、今世紀後半の世相をふり返るよすがとして、貴重な資料になるだろう。敢えて推薦の粗辞を連ねる次第である。

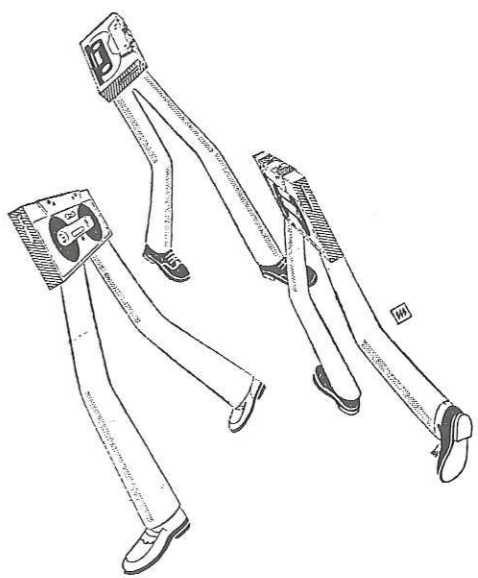
公正な批評に 誇りを

瀬戸内寂聴 〈作家〉

『図書新聞』のような良心的な新聞がもつと多くていいように思うが、あまり競争紙も現れないのは、こういう新聞の経営が大変だからなのだろうと思う。批評というのはあくまで公正でなければならぬのに、営業が先だつ最近の新聞では、どうしても広告スポンサーに遠慮してほめごっこになってしまいがちだ。

私などは悪口をいわれて成長してきたように思う。ほめられればもちろん嬉しいが、悪口をいわれると生涯忘れないので何くそと書いて勇気がわく。『図書新聞』のように公正な批評がのる新聞はもつとめんどろえてほしい。

販売流通をよくして、地方の読者を広くふやしてほしい。そのためにも、一つの区切りとして四十年の歴史と公正な仕事の姿を閲覧出来る『図書新聞』縮刷版の刊行を心から嬉しく思っている。



創業者の人となり を反映した 公正な紙面づくり

布川角左衛門 〈日本書籍出版協会相談役（'96年死去）〉

一九四九（昭和二四）年、出版・読書界は、敗戦直後のエネルギーシユな混沌から再編の時期にさしかかり、揺れていた。そのとき、読者・著者・出版者を結ぶ架け橋として、自由で、目配りよく、公正な紙面づくりをめざす『図書新聞』の登場は、すがすがしく、頼もしかった。これは、専ら創業者田所太郎君の人となりを反映したもので、このことは今日の『図書新聞』にも生きている。

田所君没後、『図書新聞』のために私がいささか力添えをしたのも、ひとえに、これあるからにはかならない。出版・読書界が揺れている今、出版文化のありようを思うとき、『図書新聞』を原初の姿から復刻しようという、このたびの企てはまことに有難いといわなければならない。

先端の問題を かかげてきた 創造的紙面の書評紙

野間 宏 〈作家（'91年死去）〉

『図書新聞』は書評紙として出発している。書物などの出版物を通して、日本の文学、芸術、学問、あるいは政治や裁判と取り組んできたが、ヨーロッパ、アメリカの動き、さらには第三世界の創造、そこにおける支配と抵抗のありようにまで踏みこみ、しかも、そこにある理論の先端の問題を、素早く紙面に提出してきた。

さまざまな文芸誌、哲学を中心にした思想誌、芸術雑誌、そういう専門雑誌で孤立した形でとりあげられる諸問題を、『図書新聞』は、相互につながりあっている根元のところまで入りこんで、紙面に掲げてきた。その点では、大きな発行部数をもつ新聞がなしていないと言いつてもいい創造的な紙面をつくりだしてきた。活字言語をもつて生み出さなければならぬ問題を把握するという点で、力をつくしてきた。私は、そのことに敬意を懐いている。

経営の面では、なんども困難にぶつかり、内部矛盾が表面化したこともあったが、それをよく超えてきた。

経済大国日本は、いま、環境問題―公害にきびくぶつかっている。これは人類的課題なのだが、今のままで進むならば、日本は環境問題の限度をもつとも先に越えることになるのではないか、日本がもつとも先にこの危機の深い淵に踏みこんでしまうのではないかと私は深い思いをもって考えている。『図書新聞』には、こういう問題に直接ふれたの論も必要だが、直接ふれることはなくとも、これまでつづけてきた文学、芸術、哲学、あるいは政治、経済、科学その他についての追求をさらに重ねて、この危機を乗り越えて日本が生き、かつ、まことの創造をおこなううえで必要かつ欠くことのできない紙面づくりを進めてもらいたい。

●復刻版(第一期)のご案内

図書新聞(第二期)

全九巻・別冊一

- 第一号(第五三三三号、一九四九年)～一九五九年
- 別冊(解説(矢口進也)・記事・執筆者・書評索引(別冊のみA4判))
- B4判・上製・総三、五六六ページ
- 本体揃価格(二三四、〇〇〇円)(別冊のみ分売可)一八、〇〇〇円

●全四回配本(一九八九年五月～一九九〇年二月配本完結)

発行年月	号数	ページ数	本体価格
第一回	第一巻	一九四九・五〇年 一七六	二二八
	第二巻	一九五一・五二年 七七七・七五	四三四
	第三巻	一九五三年 一七六・二二六	二七二
	第四巻	一九五四年 二二七・二七七	二九四
	第五巻	一九五五年 二七八・三二八	三二八
	第六巻	一九五六年 三二九・三七九	三六八
	第七巻	一九五七年 三八〇・四三〇	四〇四
	第八巻	一九五八年 四三一・四八一	四二二
	第九巻	一九五九年 四八二・五三二	四一六
別冊	解説(矢口進也)	四三〇	本体価格
	記事索引+執筆者索引+書評索引	一八、〇〇〇円	

●復刻版(第二期)のご案内

図書新聞(第二期)

全九巻・別冊一

- 第五三三三号(第九九三三号、一九六〇年)～一九六八年
- 別冊(記事・執筆者・書評索引(別冊のみA4判))
- B4判・上製・総四、二四二ページ
- 本体揃価格(二三四、〇〇〇円)(別冊のみ分売可)一八、〇〇〇円

●全四回配本(一九九〇年五月～一九九二年二月配本完結)

発行年月	号数	ページ数	本体価格
第一回	第一〇巻	一九六〇年 五三三・五八四	四三六
	第一巻	一九六一年 五八五・六三五	四〇八
	第二巻	一九六二年 六三六・六八六	四一六
	第三巻	一九六三年 六八七・七三七	四一八
	第四巻	一九六四年 七三八・七八八	四三八
	第五巻	一九六五年 七八九・八三九	四四四
	第六巻	一九六六年 八四〇・八九〇	四五二
	第七巻	一九六七年 八九一・九四一	四三三
	第八巻	一九六八年 九四二・九九三	四二八
別冊	記事索引+執筆者索引+書評索引	三八〇	本体価格
		一八、〇〇〇円	

●復刻版(第三期)のご案内

図書新聞(第三期)

全十巻・別冊一

- 第九九四号(第一五〇二号、一九六九年)～一九七九年
- 別冊(記事・執筆者・書評索引(別冊のみA4判))
- B4判・上製・総四、五〇六ページ
- 本体揃価格(二五八、〇〇〇円)(別冊のみ分売可)一八、〇〇〇円

●全四回配本(一九九二年五月～一九九二年二月配本完結)

発行年月	号数	ページ数	本体価格
第一回	第一九巻	一九六九年 九九四・一〇四三	四〇四
	第二〇巻	一九七〇年 一〇四四・一〇九三	四一〇
	第二一巻	一九七一年 一〇九四・一一四三	四一八
	第二二巻	一九七二年 一一四四・一二九三	四一〇
	第二三巻	一九七三年 一二九四・一三四三	四〇四
	第二四巻	一九七四年 一三四四・一三九三	四〇四
	第二五巻	一九七五年 一三九四・一四四三	四〇四
	第二六巻	一九七六年 一四四四・一四九三	四一〇
	第二七巻	一九七七年 一四九四・一五四三	四一〇
	第二八巻	一九七八年 一五四四・一五九三	四〇八
	第二九巻	一九七九年 一五九四・一六四三	四二〇
別冊	記事索引+執筆者索引+書評索引	三三四	本体価格
		一八、〇〇〇円	

●復刻版(第四期)のご案内

図書新聞(第四期)

全九巻・別冊一

- 第一、五〇三号(第一、九三九号、一九八〇年)～一九八八年
- 別冊(記事・執筆者・書評索引(別冊のみA4判))
- B4判・上製・総三、九八〇ページ
- 本体揃価格(二四五、〇〇〇円)(別冊のみ分売可)二〇、〇〇〇円

●全四回配本(一九九二年五月～一九九三年二月配本完結)

発行年月	号数	ページ数	本体価格
第一回	第一九巻	一九八〇年 一五〇三・一五五二	四二二
	第二〇巻	一九八一年 一五五三・一六〇一	四〇四
	第二一巻	一九八二年 一六〇二・一六五〇	四〇四
	第二二巻	一九八三年 一六五一・一六九九	四〇二
	第二三巻	一九八四年 一七〇〇・一七四七	三九〇
	第二四巻	一九八五年 一七四八・一七九五	三八六
	第二五巻	一九八六年 一七九六・一八四三	三八八
	第二六巻	一九八七年 一八四四・一八九一	三九〇
	第二七巻	一九八八年 一八九二・一九三九	三九四
別冊	記事索引+執筆者索引+書評索引	四〇〇	本体価格
		二〇、〇〇〇円	

『図書新聞』復刻版

全4期(一九四九～一九八八年)概要

●体裁

B4判(別冊はA4判)・上製・総一五、五五〇ページ

●収録内訳

第一期―第一卷～第九卷・別冊一

(一九四九～一九五九年分を収録)

第二期―第一〇卷～第一八卷・別冊一

(一九六〇～一九六八年分を収録)

第三期―第一九卷～第二八卷・別冊一

(一九六九～一九七九年分を収録)

第四期―第二九卷～第三七卷・別冊一

(一九八〇～一九八八年分を収録)

●別冊

各期ごとの記事索引+執筆者索引+書評索引
解説(矢口進也)は、第一期の別冊に収録

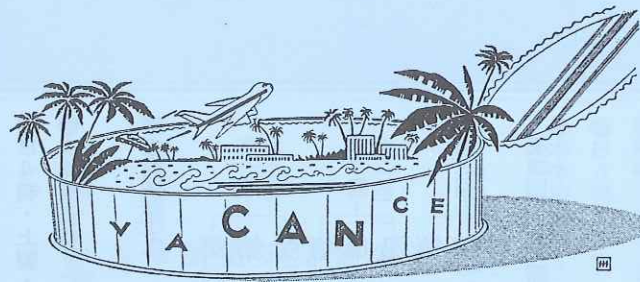
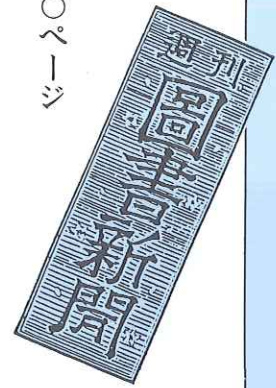
●本体価格

第一期―二三四、〇〇〇円+税

第三期―二五八、〇〇〇円+税

第二期―二三四、〇〇〇円+税

第四期―二四五、〇〇〇円+税



●本カタログ中の表示価格は、
全て本体価格です。
●弊社は注文制です。
お近くの書店にご注文ください。

●発行 不二出版

東京都文京区向丘一丁目二二番一三
電話〇三(三)八二(二)四四三三
FAX〇三(三)八二(二)四四六四
振替〇〇一六〇二一九四〇八四